

第47回熱測定討論会

今回の熱測定討論会は、10月21～23日の会期で、桐生市市民文化会館（桐生市）で開催された。従来の討論会報告にあった各セッション、シンポジウムについての報告は、今回からは学会HPに掲載するとのことで、ここでは討論会全体の様子を写真と私見を交えながら紹介させて頂こうと思う。

今回は群馬の地での初めての討論会開催であり、会場が交通の便が必ずしも良いとは言えない桐生市であったことから、参加者が少なくなることを危惧していたが、実行委員会の予想を大きく上回る201名の参加登録を頂き、また、7社からの機器展示・カタログ展示を頂いた。発表件数は特別講演2件、受賞講演2件、一般講演64件、ポスター発表51件であり、いずれの会場においても活発で熱心な討論が行われたことを、本会をお世話させて頂いた者として大変に嬉しく感じている。ご参加の皆様、ならびに本討論会の開催にご支援、ご協力を頂いた多くの方々に、実行委員会を代表して心より御礼申し上げます。

討論会は、小林祐次先生（大阪薬科大学）による特別講演「合理的創薬を目指した構造解析と熱力学的解析」を皮切りに開催された。講演では、薬理効果を分子間相互作用のギブズエネルギーに基づいて解析しようとするユニークな研究が紹介された。

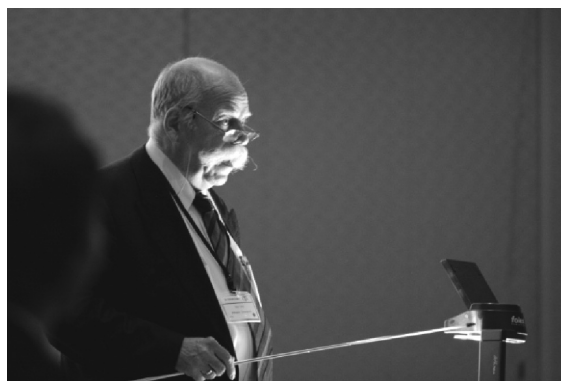


小林祐次先生による特別講演

2日目には、Emmerich Wilhelm先生（Wien大学）より、“The Art and Science of Solubility Measurements: What Do We Learn?”と題する特別講演を頂いた。ご講演は、まさに solubility data の重要性、有用性を示す内容であった。

本討論会では従来のセッションに加えて、川上亘作先生（物質・材料研究機構）のお世話により、シンポジウム“医薬品の熱分析”が開催された。また、これまで熱測定討論会は5年毎に日本熱物性学会との合同開催としてきたが、本討論会はこれをよりフレキシブルな合同開催の形とする一回目

の討論会となり、中別府修先生（明治大学）、橋本壽正先生（東京工業大学）、京免徹先生（群馬大学）のお世話により、日本熱物性学会との合同シンポジウム“デバイス材料の熱物性”が開催された。各セッションならびにシンポジウムでの発表は、物質の基本的な性質である熱物性と、これを明らかにする熱測定、熱分析の重要性を再確認させるものであった。



Emmerich Wilhelm先生による特別講演



シンポジウム“医薬品の熱分析”



合同シンポジウム“デバイス材料の熱物性”

レポート



神山匡先生の受賞講演



神崎亮先生の受賞講演

3日目には、神山匡先生（近畿大学）、神崎亮先生（鹿児島大学）による奨励賞受賞講演が行われた。お二人のはつらつとしたご講演を楽しく聞かせて頂いた。

ポスター発表は、1日目、2日目に行われた。群馬にちなんで赤城賞と銘打ったポスター賞は、討論会参加の学会委員の投票により、接戦の中、石井淳市氏、早川裕樹氏、中別府修氏による「高温熱分析用MEMSカロリメータによる熱分析・質量計測の研究」、ならびに坂田篤典氏、鈴木伸治氏、東浦祐太氏、松尾隆祐氏による「ゴムの力学・熱量効果の直接測定」に贈られた。

懇親会は、2日目夕刻に、約120名の参加により賑やかに



ポスター発表会場の様子

開催された。時間が少しタイトで、存分に飲んでご議論頂くに及ばなかったことを申し訳なく思っているが、個人的には、大先輩である松尾先生に赤城賞の賞状をお渡しできたことが嬉しくも恥ずかしい、印象に残る懇親会となった。



懇親会の様子

討論会とあわせて、初日の21日には熱測定学会シニアの会の企画による市民講座、ならびに第12回熱測定若手の会が開催され、いずれも多くの参加者を得て、盛会となった。



「市民講座」での吉田会長の挨拶



「若手の会」での中澤康浩先生（大阪大学）のご講演

以上、日本熱測定学会の益々の発展を祈念しつつ、討論会報告とさせていただきます。

（第47回熱測定討論会実行委員長 花屋 実）